

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
文学・文化学Ⅱ	全学科選択	1～8	2	高橋秀晴
授業の目標	<p>日本文化の特質を概括した上で、それぞれの地方に固有の美や価値観について、風土論の立場から考察する。なお、具体的到達点としては、以下の三点を想定している。</p> <p>(1) 日本文化の基本的傾向について理解できる。</p> <p>(2) 東北・秋田の風土と文化の関わりについて指摘できる。</p> <p>(3) 自分の出身地の風土性について理解できる。</p>			
授業の概要・計画	<p>第1週 オリエンテーション① 文化学とは何か、及び、教科書、講義・演習形態、評価等について説明する。</p> <p>第2週 オリエンテーション② 日本文化の特質について概説する。</p> <p>第3週 東北地方の文化的・風土的特質を概観する。</p> <p>第4週 秋田県の文化的・風土的特質を概観する。</p> <p>第5週 小林多喜二の文学史的意義について説明する。</p> <p>第6週 プロレタリア文学運動と風土性との関係性について考察する。</p> <p>第7週 伊藤永之介が農民文学に接近した経緯について考察する。</p> <p>第8週 松田解子の生い立ちについて考察する。</p> <p>第9週 政治と文学の関わりについて考察する。</p> <p>第10週 石川達三の秋田時代について考察する。</p> <p>第11週 矢田津世子における五城目町の意味を考察する。</p> <p>第12週 千葉治平の故郷観について考察する。</p> <p>第13週 高井有一の角館観の変遷について考察する。</p> <p>第14週 風土と文化の関わりについて考察する。</p> <p>第15週 期末試験（筆記用具持参のこと。）</p>			
成績評価の方法	<p>○試験（またはレポート）・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>○開講時に指定。</p>			
履修上の留意点	<p>○対象とした作家・作品について発表し合うという演習形式を採る。</p>			
備考	<p>○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
文学・文化学Ⅲ	全学科選択	1～8	2	高橋 秀晴
授業の目標	<p>資料の検索方法、原稿用紙の使い方、レポート・論文の基礎的ルールの確認等を通じて、文章作成の手順を理解し、文章表現力をつける。また、スピーチを通じて、音声言語表現能力を高めると共に、問題意識の涵養に努める。具体的な到達点は以下の三点。</p> <p>(1) 作文の基本ルールに基づいた文章作成をすることができる。</p> <p>(2) 個性豊かな表現をすることができる。</p> <p>(3) 現代的テーマに関する自分なりの見解を持つことができる。</p>			
授業の概要・計画	<p>第1週 オリエンテーション① 表現行為、及び、教科書、講義形態、評価について考察する。</p> <p>第2週 オリエンテーション② 表現方略としての意味マップ法について考察する。</p> <p>第3週 自己紹介という形式で自己表現する。</p> <p>第4週 「高校生の私へ」というテーマで文章を書き、自己認識の手がかりとする。</p> <p>第5週 テーマの設定方法について、具体的事例を使って考察する。</p> <p>第6週 テーマに基づいて調査を進める方法について考察する。</p> <p>第7週 調査内容や収集材料を如何にしてまとめるか考察する。</p> <p>第8週 討論の意味と方法について考察する。</p> <p>第9週 手紙文の形式について考察する。</p> <p>第10週 手紙文の内容について説明する。また、特定の相手を想定した手紙文を書く。</p> <p>第11週 実験ノートを作成方法について考察する。</p> <p>第12週 実験レポートの作成方法について考察する。</p> <p>第13週 論文の執筆に関する基本的事項について考察する。</p> <p>第14週 パーソナルコンピュータの利用方法の可能性について考察する。</p> <p>第15週 表現行為の意義について、実作体験を振り返りつつまとめる。</p>			
成績評価の方法	<p>○レポート・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>○開講時に指定。</p>			
履修上の留意点	<p>○全員にスピーチと1200字程度の小論文を課す。</p>			
備考	<p>○講義外の幅広い表現・思索活動を強く期待する。</p>			

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
哲学・倫理学Ⅱ	全学科選択	1～8	2	紺 野 祐
授 業 の 目 標	<p>「マックス・シェーラーの人間学」</p> <p>本講義では、20世紀前半に活躍した哲学者マックス・シェーラーの思想を取り上げ、人間理解にかんする学の哲学的な基礎づけを検討する。その過程で以下の目標の実現が期待される。</p> <p>①シェーラー思想における基礎的方法論ないしは態度としての現象学と、発展的方法論ないしは主題領域としての人間学を概観する。</p> <p>②人間の生と精神という概念を、シェーラーが論じたその重層性・輻輳性から理解する。</p> <p>③シェーラーにとっての「人間とは何か」という問いを、人間形成の視点も含めて考察する。</p>			
授 業 の 概 要 ・ 計 画	<p>はじめに シェーラーの思想とその背景</p> <p>(1) シェーラー以前の人間理解・概略</p> <p>(2) シェーラーの人間学とその現代的意義</p> <p>第1節 現象学と人間学</p> <p>(1) 現象学の起源と特質</p> <p>(2) シェーラーにおける「態度」としての現象学：方法的基礎として</p> <p>(3) シェーラーにおける学的必然性としての人間学：その展開と可能性</p> <p>第2節 人間の生と精神</p> <p>(1) “情緒的なもののアプリアリ”：価値感得する存在としての人間</p> <p>(2) 生 v s 精神——二元論のゆくえ：矛盾した存在としての人間</p> <p>(3) 《神的なもの》と救済の意味：宗教的な存在としての人間</p> <p>(4) 「知る」ことの起源と機能：忘我的な存在としての人間</p> <p>(5) 知覚・自覚と「知」「覚」：調和的な存在としての人間</p> <p>おわりに シェーラーの形而上学と宇宙の未来</p>			
成績評価の方法	<p>学期末のレポート、および授業期間中に課す小レポートにより評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：指定しない。（毎回レジュメを配布する。）</p> <p>参 考 書：授業内容にそくして適宜紹介する。</p>			
履修上の留意点	<p>本講義は、「哲学・倫理学Ⅰ」で扱う内容の展開の一例である。したがって本講義は、「哲学・倫理学Ⅰ」をすでに履修した学生による受講が望ましい。</p>			
備考	<p>学生の希望・授業の進度等により、内容を多少変更して講義する場合もある。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講Semester	単位数	担当教員名
心理学Ⅱ	全学科選択	1～8	2	田中平八
授業の目標	<p>認知心理学は近年めざましい発展を遂げた心理学の新分野である。人間の「知」の側面を、コンピュータとの比較から、情報処理モデルに立って研究する学問である。新しい概念で人間の諸特性・諸機能がとらえ直され、コンピュータとはまったく異なる人間の特徴が明らかになってきた。授業では認知心理学の考え方が理解できるよう、実験実習を体験しながらすすめていく。</p>			
授業の概要・計画	<p>主なトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態学的視覚論と計算論的アプローチ ・イメージの機能 ・記憶過程と記憶モデル ・学習と条件づけ ・人間の論理的判断と理解 ・問題解決と思考 ・動機づけと情動 			
成績評価の方法	<p>学期末定期試験における論述の内容、および実験課題での小レポートによる。</p>			
テキスト・参考書等	<p>特に定めない。</p>			
履修上の留意点				
備考	<p>平成19年度は第2・4・6・8Semesterで開講する。</p>			

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
社会学Ⅲ	全学科選択	2・4・6・8	2	小松田 儀 貞
授 業 の 目 標	<p>産業化社会が土台をなす現代文化とアイデンティティについて考える。文化は人間が作り、人間を作る。文化というプリズムを通して人間が現われ、社会が現れる。膨大な情報と多様な価値が交錯する現代において、人々はどのような「自己」を生活しているのだろうか。文化の機能についての理解を深めながら、高度産業化社会の実相を、労働、生活様式、消費そしてアイデンティティ等の問題を通して読み解く。</p>			
授 業 の 概 要 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン—文化と自然 2 産業化社会の秩序 3 大衆社会の病理 4 資本制社会とグローバル化 5 「私」と「世界」—アイデンティティのゆくえ <p>主なトピック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合理化と規律化 ・ フォーディズムと大量生産・大量消費社会 ・ アノミーと疎外 ・ 消費と欲望 ・ 階層文化 ・ マクドナルド化とグローバル化 			
成績評価の方法	<p>随時課すレポートと発言の総合評価。</p>			
テキスト・参考書等	<p>特に定めない。講義内で随時指示する。</p>			
履修上の留意点	<p>社会学ⅠもしくはⅡの既習が望ましい。</p>			
備考				

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
経済学A	全学科選択	2・4・6・8	2	新 任 教 員
授 業 の 目 標	<p>理工系の学生のために、経済学を紹介する。</p> <p>経済学という学問が一体何を問題にしているのか、またそれをどのように解くかを一緒に考えたいと思っている。この授業を通じて、経済・社会対象を数式で表す手法に慣れてほしいと思っている。</p>			
授 業 の 概 要 ・ 計 画	<p>価格理論から</p> <p>生産者の理論</p> <p>経済財の生産がどのような仕組みで行われているかを考える。</p> <p>また、その経済財の生産にともなって発生する費用がどのようになっているかを考える。</p> <p>消費者の理論</p> <p>消費者の所得、市場で取引される財の価格が与えられているとき、消費者はどのような行動をとるかを考える。</p> <p>生産者の理論と消費者の理論とをあわせて考えて、財の価格や（市場での）取引量がどのように決定されるのかを考える。</p> <p>国民経済の理論から</p> <p>ここでは、時事問題などから話題をとりながら、現実の経済現象をどのように理解すればよいかを経済学の立場から解説する。</p>			
成績評価の方法	<p>原則として、毎回授業の終わりに小さなテスト（証明問題、計算問題など）を行う。成績は毎回行うテストの内容から判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキストは指定しない。参考書は授業の進行に合わせて随時紹介する。</p>			
履修上の留意点	<p>初歩的な数学知識（微分積分、線形代数など）は必要である。</p>			
備考	<p>授業には電卓（関数計算の機能を持っているもの）かそれに類するもの（例えばノート型のパソコンなど）を必ず持参すること。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
総合科目Ⅱ 生活と情報	全学科選択	4・6・8	2	高橋 秀晴 紺野 祐 田中 平八 ○小松田儀貞 朴 元熙
授業の目標	「生活と情報」をテーマに、総合的な視野から物事にアプローチする見方を養うとともに、テーマに対する理解を深めることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>(概要)</p> <p>「生活と情報」のテーマのもとに、人文・社会科学の教員がオムニバス方式で下記の授業を行う。</p> <p>(トピックス)</p> <p>A. 文字現象の中に含まれている情報について、具体例を見ながら分析する。(高橋)</p> <p>B. 人間が生活を営んでゆくなかで、膨大な情報がいかに・どのような理由から取捨選択されていくかを、認知哲学を中心とした視点から考察する。(紺野)</p> <p>C. TVを中心とするマスメディアからの情報が、個人の行動にどう影響を及ぼすのかを、心理学の立場から考えてみたい。具体的には商品のPRキャンペーンと購買意欲、暴力シーン・性的情報と実行行為などである。(田中)</p> <p>D. 情報の多様な社会的機能に注目するとともに、情報リテラシーの問題を通して、情報機能の限界と可能性について考察する。(小松田)</p> <p>E. 経済活動と情報との関わりについて学習し、現在迎えている情報化社会における情報システム活用の可能性について考える。(朴)</p>			
成績評価の方法	レポート。提出方法及び時期については、第1回目の授業並びに期末の掲示の中で指示する。			
テキスト・参考書等	テキストは指定しないが、参考書は各教員が適宜指示する。			
履修上の留意点	オムニバス形式の授業の詳細は、初回の授業において説明する。			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
CALL II	全学科必修	2	2	高橋 守 檜山 晋 S. Shucart 榎木 蘭鉄也
授業の目標	CALL Iを引き継いで、コミュニケーションの場と言語材料のレベルをさらに上げる。グローバルな話題を増し、聞き取り、反応し、さらに自己の考えを表現できるようにする。まとまった話題の読み取りも取り入れる。			
授業の概要・計画	1. Orientation (1-15回の授業は『J-Talk』を使用します) 2. Unit 1 Names 3. Unit 2 Kiss, Bow, or Shake Hands? 4. Unit 3 Prized Possessions 5. Unit 4 Cheers 6. Unit 5 What's the Occasion? 7. Unit 6 first Date 8. Mid-term test(1) 9. Unit 7 On the Job 10. Unit 8 A gift For Me 11. Unit 9 Feast On This 12. Unit 10 Looking Good 13. Unit 11 That's Shocking 14. Unit 12 Glued to the Tube 15. Mid-term test(2) 16. Unit 1 Identity (16-30回の授業は『Identity』を使用します) 17. Unit 2 Values 18. Unit 3 Culture Shock 19. Unit 4 Culture in Language 20. Unit 5 Body language and Customs 21. Unit 6 Individualism 22. Mid-term test(3) 23. Unit 7 Politeness 24. Unit 8 Communication Styles 25. Unit 9 Gender and Culture 26. Unit 10 Diversity 27. Unit 11 Social Change 28. Unit 12 Global Community 29. Final test 30. Evaluation			
成績評価の方法	出席状況、セメスター中に実施する中間試験、期末試験の結果、授業への参加度(授業毎の参加状況)により総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	テキスト: Kensaku Yoshida, Linda Lee, Steve Ziolkowski 著 『J-Talk』(CD付) Oxford大学出版局 2,400円 Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iidai 著 『Identity』(CD付) Oxford大学出版局 2,400円			
履修上の留意点	テキストと辞書を必ず授業に持参すること。			
備考	各学科共通 (各年度後期)			

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
総合英語 I	全学科必修	2	2	檜 山 晋 榎木 蘭 鉄 也
授業の目標	これまで高校で学習してきた基礎の上に、さらに高度な日常的な英語力を総合的に培うことを目標とする。次の選択科目の英会話、英文講読、実践英語などへの基礎を身につける。			
授業の概要・計画	<p>科学的な話題を扱い、英語の「読む」、「聴く」、「話す」、「書く」の基本的な4技能を取得し、英語の総合的な運用能力をつける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. The Composition of Matter 3. The Elements 4. Color, Light, and Sound 5. Motion and Gravity 6. Energy 7. Heat 8. Smoking, Drug, and Alcohol 9. The Danger of Drug 10. Electricity and Magnetism 11. Liquids and Gases 12. The Origin of Life 13. Evolution 14. The Universe 15. The Weather 			
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、小テスト、試験の結果等で総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	テキスト： <i>English for Science</i> (『役に立つ科学技術英語』) 南雲堂 2000円			
履修上の留意点	テキストと辞書を持参すること。			
備考				

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
実用英語	全学科選択	4	2	Stephen Shucart
授 業 の 目 標	<p>社会に出てから役に立つビジネス英語やニュース英語を中心にする。平易な教材から高度な教材まで使用する。語彙増強を目指す。</p>			
授 業 の 概 要 ・ 計 画	<p>This class will focus on contemporary business English. Students will learn valuable vocabulary and expressions that are used in business environments.</p>			
成績評価の方法	<p>Students will be evaluated by tests, attendance, and participation.</p>			
テキスト・参考書等	<p>Angela Buckingham, Norman Whitney著 『Passport to Work』 (Oxford University Press) 2,400円 ISBN 0-19-457364-8</p>			
履修上の留意点	<p>Students must bring a new English/ Japanese dictionary to class.</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
実践英語 I	全学科選択	4	2	高橋 守
授業の目標	実践的な英語力の習得を目指した授業を行う。バランスよく英語力をのばすことのできる教材を用いて、英語検定2級程度の英語能力試験にも対応できるようにする。			
授業の概要・計画	<p>この授業の目的は、流暢さではなく、適切なコミュニケーション（思いを伝えたり受け取ったりすること）ができるようになることである。この授業では、TOEIC対策用の単語集を用いて英語能力試験対策を行いながら、様々な教材を用いて英語の運用能力を向上させる。たとえ学習者が文法的に正確な英語を使う自信がない場合でも、この授業の活動を通してある程度まで英語を流暢に使うことが可能になる。</p> <p>予定している授業の主な活動内容は、次の通り。（カッコ内は、主な活動の分野を表す。）</p> <p>Day 1. (Speaking)First Impression クラスメートの第一印象について話す。</p> <p>Day 2. (Study Skills)Note-taking Suggestion ノートの取り方について学ぶ。</p> <p>Day 3. (Integrated Skills)AB Stories 英語で短い話を読んで、クラスメートに話す。</p> <p>Day 4. (Integrated Skills)Poster Presentation1 ポスター用の原稿を読みポスターを書き始める。</p> <p>Day 5. (Integrated Skills)Poster Presentation2 ポスターを完成させる。</p> <p>Day 6. (Integrated Skills)Poster Presentation3 ポスター発表を行う。</p> <p>Day 7. (Integrated Skills)Poster Presentation4 ポスター発表を行う。</p> <p>Day 8. (Integrated Skills)Poster Presentation5 ポスター発表のまとめを行う。</p> <p>Day 9. (Study Skills)Strategy Inventory for Language Learning 英語を学ぶための方略を学ぶ。</p> <p>Day10. (Speaking)Rejoinder 会話を円滑にするための、つなぎの言葉を練習する。</p> <p>Day11. (Integrated Skills)English through Films 映画を題材にして、読解と話し合いをする。</p> <p>Day12. (Integrated Skills)English through Music 音楽と歌詞を題材にして作文を行う。</p> <p>Day13. 授業で配ったプリントに関するテストをする</p> <p>Day14. (Integrated Skills)Wrap-up 学んだこと全体のまとめをする。</p>			
成績評価の方法	出席(20%)、授業への参加の熱意度(20%)、Day13の試験(20%)、宿題(20%)、小テスト(20%)			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：甲斐幸治著 『TOEIC テスト初挑戦のための英単語 1127 と英熟語 322』 こう書房 2,100 円</p>			
履修上の留意点				
備考				

授 業 科 目 名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担 当 教 員 名
保健体育	全学科選択	2・4	2	長 澤 吉 則
授 業 の 目 標	健康・スポーツ科学の必要性、体力・健康の概念、運動・スポーツ実践の意義等を正しく理解し、その問題に対する解決の能力を高めるとともに、健康で安全な生活を営むのに必要な習慣、態度を養うことを目標とする。			
授 業 の 概 要 ・ 計 画	<p>本授業では、健康、フィットネス基礎知識、運動・スポーツの実践、健康・スポーツと社会の4つを柱に、筋、呼吸循環機能、発育発達などの身体運動・スポーツに関する様々な科学的知識と実践方法について講義する。具体的には、健康の捉え方、運動のしくみ、トレーニング理論・方法、運動と水分補給、スポーツと心理のかかわり、社会におけるスポーツの役割等を講義する。必要に応じてトレーニングとコンディショニング、栄養補給、運動と食事等に関するビデオを用い、視覚的に理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の捉え方と獲得するためのポイント 2) 生活習慣病と関連する要因 2. フィットネス基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体力とは何か、運動のしくみ 2) トレーニング理論・方法 3) 健康を維持・増進するための運動等 3. スポーツの実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動と水分補給、熱中症 2) ウォーミングアップとクーリングダウン 3) スポーツと心理のかかわり等 4. 健康・スポーツと社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 欲求、ストレスと疲労への対処法 2) 社会におけるスポーツの役割等 			
成績評価の方法	<p>セメスター後に試験を実施し、レポート、出席状況から総合的に判断して評価する。 評価の対象としない欠席（割合）条件は、1/3以下とする。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：出村慎一監修『健康・スポーツ科学講義』杏林書院、¥2,625 参考書：出村慎一・他4名編『テキスト保健体育』大修館書店、¥1,890 出村慎一・村瀬智彦『健康・スポーツ科学入門』大修館書店、¥2,100</p>			
履修上の留意点	特になし。			
備考	特になし。			

授業科目名	必修・選択	開講Semester	単位数	担当教員名
コンピュータリテラシー II	全学科必修	2	2	陳国躍, 邱建輝, 呉勇波, 高根昭一, 猿田和樹, 二村宗男
授業の目標	<p>第1 Semesterで学んだ事柄を基礎に, より実用的に表計算や画像処理などの応用ソフトの利用法を習得する.</p> <p>実践的な, 情報の加工, 処理, 発信などの情報処理能力を身に付ける.</p>			
授業の概要・計画	<p>本講義では, コンピュータ実習室の設備を活用し, 情報機器に関する知識を学ぶとともに, 演習を通して実際の利用法を習得する. また, 文章の編集・管理などを行うツールの利用や電子メール, WWWなどのコンピュータネットワークの利用について知識と実際の利用法を習得する.</p> <ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトを用いた数値データ処理 デジタル画像技術の基礎 画像処理ソフトを用いた画像データ処理 プレゼンテーションソフトの利用法 WWWネットワークの基礎的知識と利用法 Webページの仕組みと注意点 C言語 (またはVBA) を用いたプログラミングの基礎 			
成績評価の方法	<p>毎回の実習課題および最終試験の成績を総合して評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキストは講義で配布するプリントを使用する。参考書は授業あるいはテキスト内で適宜紹介する。</p>			
履修上の留意点	<p>必修科目であり、実際にコンピュータを使用する実習中心の講義であるため、内容が毎回レベルアップすることに注意すること。</p>			
備考	<p>後半はプログラミングを行うため、特に内容が難しくなる。講義内容に不明な点があれば積極的に教員に質問してほしい。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講Semester	単位数	担当教員名
環境科学	全学科必修	2	2	○ 松本真一 相馬隆雄
授業の目標	<p>環境問題や資源問題は人間の社会活動を含めた全体的なシステムとして理解し、モノ作りの体系の中に取り込んで考えること。21世紀のモノ作りにおいては、このようなとらえ方が必要である。</p> <p>新しいモノ作りの視点の基礎として、①様々なスケールの環境問題や資源問題の構図、②持続可能な社会の概念と環境倫理、③今後望まれる資源循環型社会システムの考え方を理解することを目標とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>I. 建築・都市と環境ー持続可能な社会を目指して（松本教授）</p> <p>今日の建築環境問題や都市環境汚染は、人間と自然環境の不調和がもたらす最大の問題のひとつであり、地球環境問題の縮図である。家庭生活や都市生活をとりまく環境問題の現状について概説した上で、地球環境問題と日常生活の関わり、その解決のために我々のできることを論じる。また、環境家計簿（ホームワーク）を通じ、環境問題の身近さを体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活と環境（1）ライフスタイルと環境負荷 2. 家庭生活と環境（2）建築と環境負荷、環境と健康 3. 家庭生活と環境（3）近未来の建築デザイン 4. 都市生活と環境（1）ヒートアイランドなどの都市環境問題 5. 都市生活と環境（2）問題解決のための技術的方策、環境共生都市 6. 地球環境問題（1）問題の所在と建築・都市との関係 7. 地球環境問題（2）問題の解決に向けて（価値・発想の転換と環境倫理） <p>II. リサイクル型社会システムの構築に向けて（相馬教授）</p> <p>資源が有限であることや、地球の自然浄化作用の限界をいかに克服するか大きな問題となっている。資源問題や環境問題の現状に対するマクロ的な理解を深め、今後必要とされるリサイクル型社会システムの構築の基本的な考え方や具体的な循環システム技術について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球を取り巻く環境の変遷 2. 地球温暖化と資源問題 3. 大気汚染／酸性雨と工場・自動車排ガス 4. オゾン層破壊、環境ホルモン 5. 地球環境対策の世界的動き 6. リサイクル型社会システムの展望 7. （レポート課題の実施） 			
成績評価の方法	<p>上に掲げた①～③の項目に関する理解度を、課題「環境家計簿」、最終回レポート課題の成果を通して評価する。受講態度(出席状況や宿題提出状況など)も加味する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参考書：D・H・メドウズ他、茅陽一（監訳）『限界を超えて』、ダイヤモンド社、2,300円 資源環境技術総合研究所編『地球環境・エネルギー最前線』、『身近な環境問題最前線』、『エコテクノロジー最前線』、森北出版 2,100円、2,310円、2,310円</p>			
履修上の留意点				
備考				